

巖木バイパスにおける平成20年ハヤブサ繁殖状況について

○ 巖木バイパスの沿線において環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されているハヤブサの営巣が確認されたため、本種の保護に向けて、平成17年5月に専門家からなる「巖木バイパス猛禽類調査保護検討委員会」を設立し、平成18年7月に保全措置を決定しました。その後、工事を平成18年秋より再開するとともに、引き続き現地調査、カメラ監視等によりハヤブサの生息状況の把握を行っています。

○ 平成20年の繁殖については、平成20年1月以降につがいの雌が未成熟な雌若鳥と入れ替わったが、カメラ監視や現地調査等により交尾や求愛給餌が確認されたため繁殖の可能性はあるものと推察されました。

しかし、

- ① 雛への給餌等、繁殖を直接示す行動は確認されなかったこと。
- ② 産卵が確認された平成19年繁殖期に比べ在巣時間が非常に短いこと。
- ③ また、5月の現地調査時にハヤブサのつがいが巣から離れている間に、営巣地にカラスが侵入したものの、卵や雛をくわえていなかったこと。

上記の結果が確認されたため、平成20年は繁殖していないものと考えられます。

また、営巣地周辺には集団でカラスが生息しており、営巣地への徘徊や群の飛翔がみられ、ハヤブサの繁殖活動への影響が懸念されます。

このため、カラスの生息を助長しないよう工事の実施にあたっては、「ゴミや残飯は持ち帰る」等の注意事項について作業員への教育を行うとともに、地域の協力を得ながらゴミの管理等を行ってまいりたいと考えています。

○ 今後とも引き続きモニタリング調査を実施するとともに専門家の意見を聞きながら、事業の進捗に合わせて保全措置を図り、ハヤブサの生息環境との調和を目指した事業の実施に取り組んでまいりたいと考えております。

* 多数の人が営巣地付近に接近し、撮影行為等を行うことは、ハヤブサの繁殖活動を阻害することになるため、ハヤブサ等の飛翔状況、営巣地に関する情報の公表は、差し控えさせていただきますので、ご理解・ご協力をお願い致します。

巖木バイパスにおける平成20年ハヤブサの繁殖状況について

1. 調査の概要

(1) 調査方法

計画路線付近のハヤブサの繁殖状況を的確に把握するため、見通しの良い場所に定点を複数設け、ハヤブサの飛翔状況や繁殖行動等の観察を行いました。

また、ビデオカメラによる観測システムを設置し、継続的なモニタリングを実施しました。



(2) 現地調査期間

■猛禽類調査

<平成20年繁殖期>

・繁殖期調査 : 平成20年1月～6月、各月1回、3日連続

■ビデオカメラによるモニタリング調査(継続中)

平成17年12月～平成20年6月

※なお、現地調査期間中に営巣地近傍での工事は実施していません。

2. 調査結果の概要①

平成20年の繁殖期は、未成熟な雌若鳥との入れ替わりがあったが、交尾や求愛給餌が確認され、昨年同様、繁殖につながる行動が確認されています。

しかし、雛への給餌等、繁殖を直接示す行動は確認されませんでした。

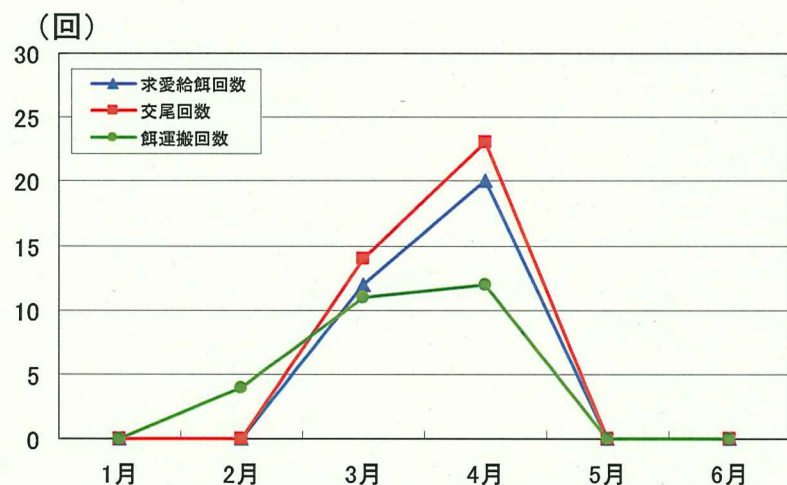
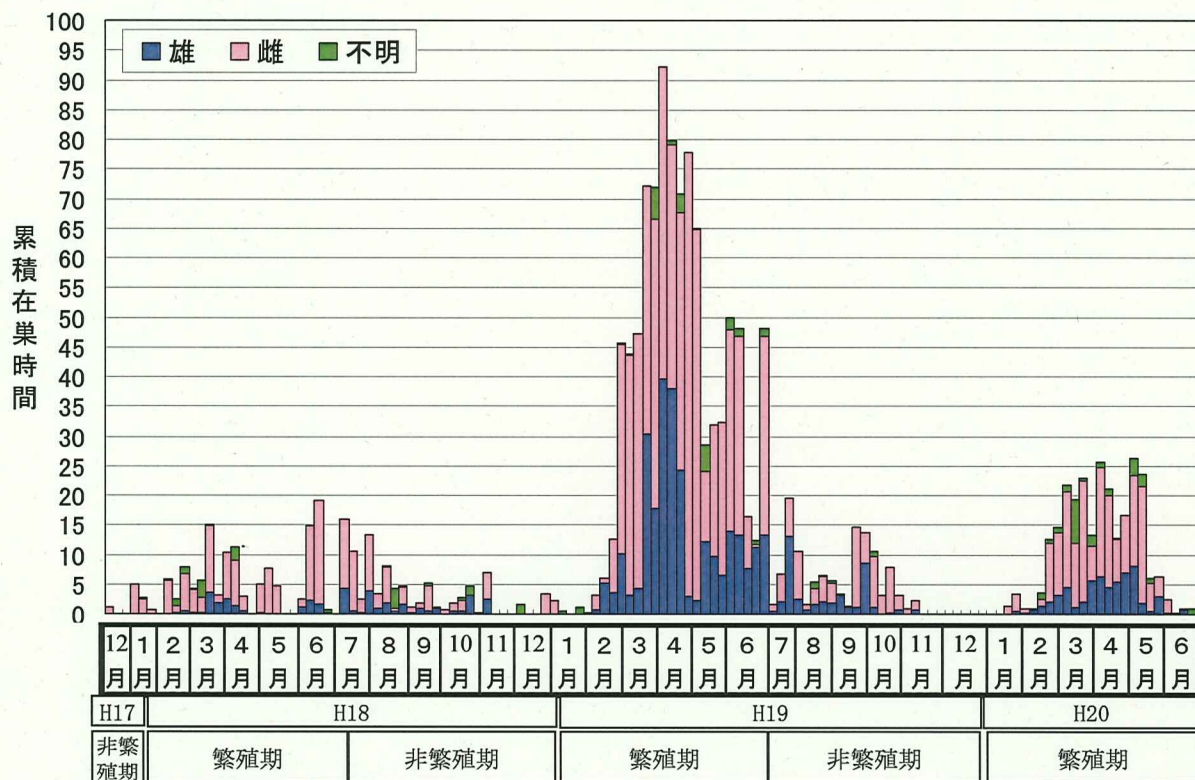


図 求愛給餌、交尾数等の経月変化 (H20. 1. 1~H20. 6. 30)

2. 調査結果の概要②

設置したカメラから、つがいの在巢時間を解析したところ、平成19年繁殖期に比べ在巢時間が非常に短いことが確認されました。

また、営巣地に頻繁に飛来しますが、すぐに飛び去ることから、抱卵の可能性が低いことが考えられます。



※グラフは、ハヤブサが巣に滞在する時間を1週間単位で示したものです。

図 在巢時間の経時変化 (H17. 12. 24～H20. 6. 30)

2. 調査結果の概要③

5月4日には、ハヤブサのつがいが巣から離れている間に、カラスが営巣地岩棚に出入りしている姿が確認されたが、卵や雛はくわえていなかったことから、平成20年は繁殖しなかったものと考えられます。

なお、営巣地周辺には集団でカラスが生息しており、営巣地への徘徊や群の飛翔が見られ、ハヤブサの繁殖活動への影響が懸念されます。



○今後とも引き続きモニタリング調査を実施するとともに専門家の意見を聞きながら、事業の進捗に合わせて保全措置を図り、ハヤブサの生息環境との調和を目指した事業の実施に取り組んでまいりたいと考えております。

* 多数の人が営巣地付近に接近し、撮影行為等を行うことは、ハヤブサの繁殖活動を阻害することになるため、ハヤブサ等の飛翔状況、営巣地に関する情報の公表は、差し控えさせていただきますので、ご理解・ご協力をお願い致します。

◎路線の概要

一般国道203号巖木バイパスは、地域高規格道路の佐賀唐津道路の一部を構成する道路です。

この佐賀唐津道路は「県内主要都市間55分圏構想」の実現を支援し、将来は西九州自動車道や有明海沿岸道路等と連結し、幹線ネットワークを形成するとともに、佐賀空港や唐津港などの広域交通拠点とも連結するなど、非常に重要な役割を備えています。

現在、巖木バイパスのうち、巖木多久有料道路から岩屋IC間（約4.3km）が供用開始しており、残る岩屋ICから長部田IC（仮称）間（約2.0km）について、事業を推進しています。

